

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200398		
法人名	株式会社cluster		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 こすもす		
所在地	福島県会津若松市神指町大字黒川字湯川東228番地		
自己評価作成日	令和3年9月20日	評価結果市町村受理日	令和4年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年11月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方と馴染みの関係をつくりつつ敬意を持って接している。一人ひとりがご本人なりの役割を持ち生き生きと過ごしていただけるよう可能性を引き出し出来る事を発揮できるよう支援している。また入居者の方の体調・心情面での変化に医療関係者と連携しながら状態に応じたケアをさせていただいている。除草作業などボランティアの方に協力をいただきながら地域との関係づくりに努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 教育・リスク管理・業務・広報の各委員会があり、年間目標を立て計画的に活動している。内容は職員会議で報告されており、職員間でグループホーム全体の課題が共有でき、協力的体制が築かれている。  
 2. 職員は個人目標を立て、達成状況の自己評価を行うとともに、管理者、リーダーによる他者評価で助言やコメントがあり、強みや弱みを気づくことができている。自己成長を気づけるとともに次年度の目標が明確になるなど人材育成が図られ職場定着につながっている。  
 3. ミーティングで本人のためのケアか、誰のためのケアか話し合いが持たれ、利用者が心地よく過ごせるよう、声かけや関わり方の工夫をしている。話し合いの中で職員同士が気軽に意見を述べやすい職場風土づくりに取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関とホールに掲示いつでも確認できるようにしている。それらを踏まえて事業所の年間目標・個人目標を立て実践に取り組んでいる。またカンファレンスやミーティングを通して日々のケアを振り返り管理者職員で共有している。	理念を基に事業所並びに職員自身が年度目標を立て理念の実践に努めている。職員は目標の達成状況について振り返りを行い、管理者等による評価(他者評価)を受けて自己成長過程を確認できるなどケアの質の向上に結び付く取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。コロナ禍であり地域との交流の機会は減っているが、近隣の方やご家族から野菜をいただいたりおすそ分けをしたり、また、ボランティアの方が除草作業に来て下さる等して交流がある。	町内会に加入し市政だよりなどが届いている。コロナ禍の交流は難しいが、事業所の広報誌を地域に配り理解を得るようにしている。また、地域のボランティアの除草作業などがあり交流は続いている。認知症サポーター養成講座にはキャラバンメイトとして参加協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みの際に認知症の方の対応について相談に応じている。地域の方へは広報誌で情報発信、また初任者研修・認知症サポーター養成講座を通して認知症の方の理解や支援方法に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナの感染状況から会議は中止している。事業所での活動状況を書面で報告し、メンバーからの意見・助言をいただいた際にはサービスの向上に活かせるよう努めている。	現在は書面で利用者の状況や行事、事故などのアクシデント、コロナ感染症への取り組みなど分かりやすくまとめ報告して意見をいただいている。委員の町内会長や認知症家族の会の役員の方から地域の情報や意見が寄せられている。それを運営に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課に事業所の活動状況を広報誌などで伝えている。また、管理者は認知症医療介護推進会議のメンバーとして市民からの福祉に関する問い合わせに市と連携して対応している。	事業所の広報誌を行政に送り運営状況を伝えている。また、管理者は市の認知症医療介護連携推進連絡会議メンバーにグループホーム会津支部の代表として参加し、行政や福祉、医療の関係機関と情報を共有し、地域の課題にも連携して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会の参加や勉強会を通して、身体拘束の内容と弊害について職員全員が認識し、行動の制限をしない、また言葉による拘束にも留意したケアを行っている。運営推進会議で身体拘束の有無・日頃のケアが身体拘束に繋がらないよう振り返りを行っていることを報告している。	身体拘束防止指針を策定し、会議も定期的開催している。ミーティングでケアが身体拘束に当たらないかを振り返る場面を設ける他、「虐待のチェックリスト」を活用し自己評価している。また、外部・内部研修で身体拘束や虐待について理解を深める取り組みをしている。玄関は日中施錠せず見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の参加や定期的に勉強会を設け理解を深めている。チェックリストを活用し日々のケアが虐待に繋がることのないよう職員間で共有し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加から学ぶ機会を設け職員間で共有している。またご家族の方の相談にも応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者のご家族から不安なこと疑問点はないか伺いながら出来るだけわかりやすく説明を行い理解・納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方からは日々の会話の中からお本人の意向・要望を引き出し把握できるよう努めている。ご家族からは来所時及びに運営推進会議文書にて意見要望を伺い運営に反映できるよう努めている。	センター方式を使いアセスメントシートに本人の言葉を記入し、願いや要望を把握できるようにしている。家族からは面会時や電話で要望を聞くほか、介護計画を説明するときに時間を取って説明し、話し合っている。得られた要望等は支援や運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の事業所ミーティングや日頃からコミュニケーションを図り意見や提案を聞く機会を設けている。業務改善に繋がられるよう代表にも声を上げ反映させている。	職員会議で「あったらいいな」を出してもらい、電気ウオーマーやセンサー付き消毒を購入している。また、業務改善アンケートを行い、職員の意見を取入れて業務の見直しに取り組んでいる。食材業者を選定したり、職員が食材を調達するなど残食を減らすことに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験年数に応じた評価表の活用や資格取得、ミーティングの皆勤者、年1回の事業所の功労者への感謝状などで職員処遇へ反映しており、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じて研修会への参加の機会を設けている。また、研修会・勉強会で得た知識を他職員と共有できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム協議会に加入している。研修会等を通して情報・意見交換で交流を図っている。また広報誌を送付しあって情報の授受を行いサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のお話を伺い、心配事や不安な気持ちを受けとめ要望に沿った生活が営めるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が現在抱える悩みや困っている事、サービスを利用する不安などに耳を傾け、出来るだけ要望に沿った支援を行い安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の状況をふまえ利用中のサービス事業者等からも情報を得るなどとして必要としている支援に沿えるよう努めている。また事業所で出来る事・出来ない事や状況に応じて他サービス事業所の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の出来る事・得意分野を活かしながら過ごしていただいている。共に生活する中で人生の先輩として学ばせていただく姿勢を持ちながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の写真や思い出の品を居室に配置し絆を深める一助としている。会話の中にもご姉妹や子供さんの話題を取り入れ、ご家族にその時の様子などを伝え関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚の方から面会の希望があった時にはコロナ対策を行ったうえでガラス越しまたはカーテン越しで面会していただいている。また、ご家族の協力を得て受診に馴染みのタクシーで外出されるなど関係性の継続の支援に努めている。	コロナ禍にあり、家族とはガラス越し又はカーテン越しで面会を行っている。家族から写真をいただき部屋に貼ったり、身内とは電話をしてなじみの関係が途切れないようにしている。また、受診時はなじみの介護タクシーを使うなど工夫しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の間を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方同士の間を把握し気の合う方同士で関わりあえるよう席の配慮をしている。一人ひとりが孤立しないよう時には職員が間に入りながら入居者の方同士の良好な関係が保てるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居された方へ面会や近況を伺い、その後の相談や支援に努めながら経過を見守るなどして関係性を大切にしている。また退居された方のご家族が庭の手入れや除雪のボランティアに来て下さっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話やしぐさ表情などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合もご家族から得た情報や声かけなどに対する反応等から汲み取るよう努めている。また必要に応じてカンファレンスを行い意向に沿えるよう取り組んでいる	センター方式を使い、利用者の担当職員が会話や仕草から気づいたことを記入し、本人の思いを把握するようにしている。それをもとに職員間で話し合っている。また、家族からも利用者の情報や意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス事業所の担当者やご家族から情報を聞き取り、センター方式を活用し職員間で共有しながら経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの在宅や施設での過ごし方や習慣をふまえて日々の生活の様子を記録し身体の状態を含め今出来る事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎にモニタリングを行っている。ご本人からは日々の暮らしの中から意向を伺ったり想いの把握に努めている。ご家族や主治医・看護師からも意見を取り入れ介護計画に反映している。	介護計画は原則3か月ごとに見直している。部屋担当者がモニタリング、介護計画の評価を行い、ミーティングで変更内容を協議している。サービス担当者会議で利用者や家族、主治医の意見も入れて検討して策定している。家族にも変更点を丁寧に説明し、理解を得るなど信頼関係を築いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践内容に加え気づきや工夫を個別の記録に記入し申し送りを行っている。またその都度カンファレンスを開き介護計画を見直し職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況・状態に応じてご本人・ご家族の意向を確認しながら医療機関・福祉用具等他事業所との連携を深めつつニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、町内会の夏祭りや地区の文化祭等に参加し交流を深めたり近所のスーパーに買い物に出かけたりしているがコロナ禍でもあるため外出の機会が減っている。除草のボランティアの方との		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望でかかりつけ医に受診している。状態に応じてホームでの様子を情報提供している。また緊急時には隣接した協力医院と連携し適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医へ通院する際は、家族へ本人の体調を口頭や書面で伝えている。必要に応じ職員が受診対応することもある。隣に協力医院があり、かかりつけ医となっている利用者も多い。利用者の状態に応じて往診を依頼したり、緊急時にも協力医の対応があり、適切な受診体制が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護師が健康チェックを行っている。状態変化や気になる点を報告し相談・助言を受けている。また隣接したクリニックが週一回訪問診療に来所しており随時状態報告医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者とその都度状況の確認、情報交換や相談に努め関係づくりを行っている。また職員が面会に伺い食事介助等を行うなどして馴染みの関係が継続できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に向けた指針を説明し同意を得ている。重度化した場合ホームで出来る事・出来ないことを早い段階から話し合いながらご家族の意向を確認している。また職員間でも終末期に向けて方向性を確認し医療関係者とチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期を迎えた場合については、入居時や状態が変わってきた時などにその都度家族と話し合っている。また、状態に応じて医師・家族・事業所で話し合い、状態や希望に応じて事業所のできる対応をしている。看取りについても医師や看護師と連携しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の方の状態変化の度合いに応じて事故発生時の流れを掲示しており定期的に訓練を行い実践力を身につけられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し消防署へ結果を報告している。また防災設備の業者の方にも助言をいただいている。新職員入職の際にも訓練を実施している。また地域の消防団の方にも避難訓練立会いの協力を依頼している。災害発生時に備えて食料や飲料、備品などを備蓄している。	年に2回、防災訓練を行う他、定期的に夜間想定 の避難訓練や消火訓練を行っている。消防署立ち 会い訓練、防災設備業者による設備の取り扱いな どの説明を受ける機会も持っている。また、家族 連絡網があり、家族の協力体制がある他、町内会 や地元消防団に協力依頼を働きかけている。食料 や備品については定期的に確認し、適切に管理 している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない言葉かけや対応が 出来るよう心掛けている。また排泄や入浴 の際にも出来るだけ肌の露出を少なく出来 るよう配慮している。	普段の言葉遣いや接し方等について接遇の研修 やミーティングで話題に出し、利用者に伝わりやす いような声かけや適切な対応を確認している。排 泄の際はバスタオルをかける等羞恥心やプライバ シーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	入居者の方の発する言葉の裏側や心の声にも 耳を傾けられるよう努めている。言葉では十分に 意思表示が難しい場合でも表情や仕草等から本 人の希望を汲み取ったり自己決定出来るように 働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活スタイルやその日の体 調に合わせて過ごしていただいている。また 日常の中で自己決定出来るよう意向を伺 いながら希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	衣服を選んでいただいたりご本人の好まれ ている色や形など意向を取り入れている。2 ～3か月に1回美容師に訪問していただい ておりご本人らしい身だしなみの支援をしてい る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行 い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食 事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の下ごしらえや盛り付け調理などを職 員と一緒にいただいている。旬の食 材や伝統行事に合わせた献立を提供したり 誕生日には希望を取り入れるなど食事を楽 しんでいただけるよう支援している。	食事に関わる仕事を利用者と職員が一緒に行っ ている。利用者とチラシを見ながら献立を考え、近 所のスーパーから食材を購入している。近隣から もらった野菜など、その日あるものや食べたいも のを調理している。芋煮やおはぎ、こづゆなどの 郷土料理や季節の献立を取り入れ、食事を楽しめ るよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	メニューが偏らないよう工夫している。毎回 食事摂取量を記録し食事形態に工夫したり 代替品を提供するなどお一人お一人に応じ た支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやスポンジ等それぞれに応じて使用し支援を行っている。歯磨きが不十分な方にはご本人に確認しお手伝いさせていただいている。義歯は就寝前に洗浄剤で消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄のパターンの把握に努めている。声掛けには歩行練習や散歩の流れでお誘いする等配慮している。またトイレサインを職員間で共有しながら排泄の自立の支援に努めている。	一人ひとりの排泄のサインを把握し、トイレで排泄できるよう、自然に立ち上がるよう声かけを工夫している。職員同士で情報や気づきを共有し、適切な支援をすることで、小さいパットに変更するなど自立度の向上にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や排泄状況を記録し把握している。便秘予防に繋がる飲み物や食事作りを心がけており、お一人お一人に応じて腹部マッサージや運動を兼ねたモップ掛けなど行っていただく等工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人お一人の習慣やその時の気分を汲み取りながら気分よく入浴していただけるよう心掛けている。また入浴剤にも工夫を凝らし色や香りでも楽しんでいただく工夫をしている。	色のきれいな入浴剤の他、りんご・しょうぶなどの季節風呂も取入れ、気持ちよく入浴できるよう工夫している。身体状況により浴槽に入れない利用者については、足をあたためながらシャワー浴を実施し、体があたたまるように配慮している。利用者の羞恥心に配慮し要望に沿って同性介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の習慣や活動状況・夜間の睡眠状況を考慮しながら休息をとっていただいている。夜間寝つけない方にはホールで職員と一緒に過ごしていただき温かい飲み物を勧め安心して休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は常時確認できるよう個別のホルダーに入れ薬袋にも薬の名前を記入している。薬の目的や副作用等の理解に努め変更時は記録に記入し状態の変化観察を行っている。また飲み忘れがないか職員2名にて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の生活歴を活かし充実感や達成感のある生活を送っていただけるよう取り組んでいる。また季節の行事や誕生会などを通して気分転換の支援を行っている。嗜好品についても出来るだけ希望に沿えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響を受け外出支援が難しくなっているが車中からのお花見や駐車場でのお茶会、デッキでの外気浴など季節感を感じていただけるよう努めている。また自宅へ寄りたい等の希望の時も出来るだけ意向に沿えるよう支援している。	コロナ禍以前は散歩や買い物など日常的に外出していた。現在は自由な外出ができなくなってしまったが、車で桜や紅葉を見に行ったり、敷地内での外気浴を行うなど工夫している。自宅が気になる利用者については自宅を見にドライブをするなど個別に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預り金として事業所で管理しておりご本人の希望に応じてご家族と相談し必要物品を購入している。個人で所持されている方もおられ購入を希望される時は必要金額をご本人と確認させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話はいつでも取り次ぎできるよう支援している。ご本人から要望があればその都度対応させていただけるよう体制を整えている。手紙についてはご本人にお渡し又はご家族に報告しており、やり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼ホールに小上がりの和室が隣接しており一息出来る空間になっている。温度・湿度の管理に努めロールカーテンで日差しの調整を行っている。掃除機やミキサー等使用の際は一声かけるなど配慮している。玄関・ホールには飾りや作品で季節感を取り入れる工夫をしている。	ホールは明るく光が入る造りになっている。日差しや室内の温湿度については温湿度計で管理し、利用者が心地よく過ごせるよう細かく調整している。手すりの消毒や共用部分の掃除なども定時で行っている。畳の小上がりやソファなど好きな場所で過ごせるよう配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方の相性や関係性を考慮しつつ状況に応じた居心地のよい居場所づくりに努めている。廊下にソファやイスを設置しており独りになれたり入居者の方同士や職員と外の景色をみながらゆったり過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居者の方が使い慣れ親しんだ家具等をご本人・ご家族と相談しながら配置している。またご家族の写真やご本人が作成した馴染みの物を活かし居心地よく安心して過ごしていただけるよう配慮している。	造りつけの棚、エアコン、照明以外は全て持ち込んでもらうようになっている。ベッドや布団、テレビ、タンス、イスなど馴染みのものを持ってきてもらい使いやすいように配置している。部屋の入口に飾り棚があり、利用者の作ったものや書、写真等が飾られているため、自室がわかり、愛着を持てるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室・洗面棚・イス等お一人お一人色分けをしわかりやすくしている。また状態に応じて居室の扉に名前を明記し出来るだけ戸惑いを少なくできるように工夫している。		